

プラタナス

新宿区立四谷中学校
学校だより
第11号
平成23年1月17日

年頭にあたって これからの四谷中学校

校長 吉田 和夫

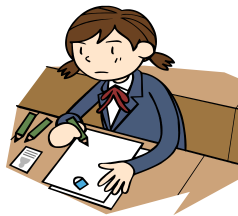


少し遅くなりましたが、新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

さて、昨年は、四谷第一中学校と四谷第二中学校という四谷地区にあった二つの中学校が統合し、四谷中学校として新たに開校してから、ちょうど10年ということで、10周年記念の式典や祝賀会がありました。また、大変な盛り上がりを見せ、大成功だった運動会や合唱コンクールも、10周年にふさわしい記念すべきものだったと思います。これも生徒の皆さんの団結や教職員の努力、保護者や地域の支援者の方々の協力の賜物であると深く感謝する次第です。きっと、卒業式も記念すべき素晴らしい式典になることでしょう。

昨年末の終業式と今回の始業式で話をしましたが、3学期は各学年の総括の時期であるとともに、次のステージへの準備の時期です。今年度を振り返り、できたことできなかったこと、達成したことまだ達成していないことなどをきちんと意識し、学期が終わる年度末の3月末までに、やるべきことをきちんとやる必要があります。同時に、次の年度を考え、そのための準備をすることが大切です。

ほとんどの3年生は高等学校や上級学校に進学します。「どの学校に行くか」も大切でそれに向かって努力することはもちろん必要なことですが、「そこで何をやるか」の方がはるかに大事です。どのような高校生になるかは、おおむね3学期3月までの姿勢や行為で決まります。卒業までの日々を大切に過ごし、次のステージで活躍できる力を蓄えてほしいと思います。そして、2年生はいよいよ最上級生になります。今までとは違う「意気込み」と3年生としての生活や学習が求められます。その歩みは3学期から始まります。四谷中学校を代表するにふさわしい最上級生となり、先輩たちが築いたこの学校の文化や伝統を引き継ぎ、よりよいものにしてほしいと思います。キーワードは「より良く」です。生活や学習、行事への取り組みなど、先輩に負けないものにしましょう。1年生は2年生となり、新入生を迎え中堅学年の「先輩」となります。学習だけでなく委員会活動や部活動など、新入生を指導し導く役割です。人は立場や役割ですべてが決まるわけではありませんが、立場や役割は確実に人を育てます。ぜひ、尊敬される先輩になってください。



「より良く」を目指すために、今、何を大事にすべきなのでしょう。昨年からあちこちで皆さんに話をしている「あじみそマール」については、「あいさつ」と「身だしなみ」はかなりきちんとしてきました。今の課題は「時間」と「掃除」です。「掃除」は教室や廊下を汚さない、ゴミを捨てない、清掃当番をきちんと行うなど、日常的な努力で解決できる問題です。「トイレの神様」の歌ではないですが、自分の使用する場をきれいにすることは人としての務めです。当たり前のことを当たり前でできる人になればいいのです。



「時間」については、予鈴やチャイム着席を「学校に入る」や「席に着く」ことではなく、「教室にいる」「学習を始める」ことに変えてほしいと思います。これによって、四谷中学校の授業の質と量が大きく向上します。1コマ45分という時間割は多くの授業時数を生み出し、多様な行事や取り組みに対応するためのものです。朝、最初の学習である「読書」や「朝学習」にすぐ取り組めるよう、予鈴での教室着席を実現しましょう。また、「席に着け」という先生の声がいらないような質の高い集団は、当然学力を向上させます。休み時間で次の授業の準備をし、チャイムとともにすぐに授業に取り組むような学級・学年にしましょう。

学校は10周年も終わり、次の10年を考える時期になりました。統合して10年経った四谷中学校が、今後どのような学校になるのか、我々教職員は学校運営協議会の方々と話し合っています。しかし、実は皆さん自身が一番の当事者です。学校が良くなるかどうかは、皆さん次第からです。より良い生徒が育つ学校や組織には、より良い生徒が入り、より良い人が集います。皆さんが学校や地域を良くすれば、それらを一層高めていくことができます。今、私たち教職員とともに、生徒の皆さんがそれを担うのです。10年後、皆さんは大学を卒業したり、会社に入ったり、事業を始めたりして、直接この四谷地域を支えることとなります。そして、やがて皆さんの子供たちがこの四谷中学校に入ってきます。その時に、自分の子供を入れたい四谷中学校であるかどうか、それは皆さん自身が築き上げた四谷中学校の伝統や校風、学び舎としての意義や価値によって決まってきます。今、生徒の皆さんが10年後のYotsuya, The Best Schoolの基盤を築いているのです。四谷の地域やその中の中学校を愛し、より良い学校と地域を皆で創り上げましょう。



四谷中の3年生2名が、「人権作文コンクール」と「税についての作文」で受賞しました。その受賞作文を紹介いたします。この作文を読んで、皆さんも、人権や税について、考えてみませんか。

人権作文コンクール 新宿区特別賞 いずれ行く道

3年 平佐多 玲奈

私の住んでいるマンションには、単身の高齢者や障害者向けの部屋があります。全住戸18戸の内の半数の9戸です。歩行時に杖を使用する人、車椅子の人、酸素ボンベをつけている人や90歳を過ぎた人が住んでいます。現在の高齢者社会の縮図のようです。

昼間、エレベーターは、かなりの確率で2階に停止し、高齢者の方が乗ってきます。「こんにちは」「ごめんね、2階なのに」「いいえ、どうぞ、どうぞ」とエレベーターの中では、いつもこんな会話を交わします。高齢の方は一般的に動作が遅く、エレベーターが止まって、乗り降りするまでに相当な時間がかかります。

乗り合わせた時は、『開く』のボタンを押しながらずっと待つのですが、自分がたとえ急いでいる時でも、その高齢の方の動作を見守りながら待つことができます。私は今、14歳です。この



マンションは築12年なので、私が2歳の頃に住み始めました。今は高齢になられた方も、当時は今より12年分若かったのです。その頃は、幼かった私のことを、きっと見守りながら同じように待っていてくれたに違いありません。今、こうして逆の立場でいることは、過ぎゆく時の重さだと思えるからです。

オフィス街のビルやデパートなどでは、2階でエレベーターを止めて乗り込むことは、どこか気が引けて、周囲の目が恥ずかしいです。それは、初めて合う人が乗り合わせた空間だからでしょうか。乗った瞬間から気まずい空気が流れたりするので、そのような場合は、きっと多くの方が階段を利用するでしょう。これは高齢者や健常者の感覚です。私の住んでいるマンションでは、エレベーターでの1、2階の昇り降りは少しもおかしな事ではありません。それは、日頃お互いに、簡単な挨拶や一言をかけ合うことで、コミュニケーションをとりながら、一緒に生活しているからです。コミュニケーションは大切な事です。

私は小学生の時に、車椅子の体験学習をしたことがあります。いつも何気なく歩いている道の小石が通行の妨げになってしまったり、低い段差を超えるのがとても大変でした。今まで平坦だと思っていた道に障害物が多い事を気づかされた貴重な体験でした。

その時に、『段差』について調べたのですが、日常生活の歩行に



おいても、高齢者は、身体機能の低下により、反射速度や視力の低下で、健常者であれば意識しないような容易にまたげられる段差が識別できずに、つまずき。とっさにもう一歩が踏み出せな

かったりすること。手で自分自身を支えきれずに転倒し、骨折する例がたたない事などを学習しました。廊下やエレベーター、また、家の各所の手すりやバリアフリーの床などは、高齢者や障害者の方の生活には、必要不可欠なものであることを知りました。また、それが大きな手助けとなることも知りました。

統計局によると、平成21年卒の65歳以上の高齢人口は、総人口に占める割合の22.7%で過去



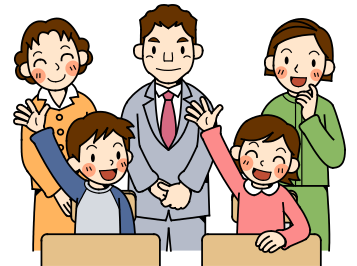
最高となったとあります。また、高齢単身世帯のうち、共同住宅に居る住する者の割合が初めて三分の一を超えたそうです。高齢者等に配慮した住宅設備については、設備がある住宅が全体の48.7%で、1戸建が59.9%、共同住宅が34.6%でした。現在、高齢化社会が進行している今、こういった形の住宅が増加しつつあります。共同住宅における設備では、「段差のない屋内」「手すりがある」が高い割合を占め、年々需要にあった設備の充実をはかった建物が増加しているようで安心しました。

「子供叱るな 来た道だもの」

「老人笑うな 行く道だもの」

作詞家でエッセイストの永六輔さんの「無名人名語録」にある詞で、浄土宗の熱心な信徒の方が詠んだそうです。母が教えてくれました。

子供叱るな 来た道だもの
老人笑うな 行く道だもの
来た道 行く道 二人旅
これから通る今日の道
気は長く 心は丸く
腹をたてず 口をつつしめば
命ながらえる



と、続きます。先日、マンションの住民の高齢者の方と世間話をした後、母が私に「みんなで行く道なんだからね。」と言った言葉がずっと心に残っています。

父や母がいずれ高齢になった時、私はきっと母の教えるを思い出しましょう。『いずれ行く道』そして、私がかもっとも大人になったとき、自分の子供にも、年を重ねる事の大切さを教えられたらいいなと思います。



税についての作文 会長賞

日本の消費税のあり方について 3年 水上 由貴

日本の国会議員の年収は2200万円以上だ。しかし、

スウェーデンの国会議員の年収は約9

00万円だと言う。だからこそ、スウ

ェデンの国会議員は国民目線で

政治をすることが可能だと思う。

そのことがスウェーデン国民が国会

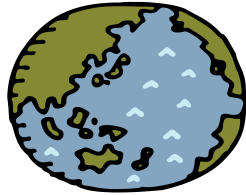
議員を信頼できる基盤となっているのだ。スウェーデンの消費税は20%以上で日本とは比較できないほど高率である。医療費、教育費などは無料だと知って驚いた。私は、スウェーデン国民が高い消費税に不満を持たない理由が、ここにあるのだと十分に納得できた。

さて、日本に目を向けると、国家公務員の年収は1000万円以上、地方公務員は約930万円だと言う。これは民間の業種ではあり得ない高額所得であると言われている。このように恵まれた日本の国会議員、国家公務員そして地方公務員の所得をそのままにして、消費税を値上げしても、国民は全く納得しないのではないのでしょうか。まず、国会議員の数を減らすことによって政治家が真に財政の改革をする覚悟を示すことが何よりも重要だと思います。そうすれば、役人の数と年収を三割削減することが十分に可能になるでしょう。そして天下り団体の特殊法人の膨大な無駄遣いを一掃すれば軽く20~30兆円の財源が生じると言われています。そうすれば、財政再建を可能にできるのではないかと考えます。

こうして無駄な税金をなくせば、消費税を上げても良いという国民の数が増えるはずですよ。無駄をなくして、消費税の収入が増えれば、日本の財政は、間違いなく正しい道を歩めると確信します。

もし、それができないというならば、2025年には、高齢者一人を支えるのに労働者1.8人が必要になると言われています。15年後なので私は30歳になりますが、この場合、私の人生は「無いに等しい」ものになるのではないかと恐れています。その意味では、長期的には消費税をあげることは避けることができないものと考えます。そこで、例えば消費税を一律に10%、15%上げるとは不公平になってしまうと思うのです。低所得者に不利にならないようにするには、必要不可欠の食品などは0%にし、贅沢品などには15%~30%という高い消費税をつけても良いのではないのでしょうか。そうすれば、多くの国民に支持されるのかもしれない。

最後に、税の作文をきっかけに、税についてたくさんの事を学びました。これからもっともっと勉強して、日本の発展のためにあまり力になれないかもしれないけれど、頑張ろうと思います。



新苑 学級

卒業と進級に向けて...

3学期を「1年間のまとめ」と「次年度への準備」の学期として、一人ひとり、頑張ります。生徒たちはそれぞれ、以下のような3学期の目標を考え、決めました。

- ・高校生になる準備をする
- ・困った事があったら、先生に聞けるようにする。
- ・失敗しても、切り替えを早くする。
- ・朝のランニングで歩かない
- ・言葉遣いを気をつける
- ・字を丁寧に書く
- ・先生から言われなくても、自分で行動する
- ・給食で嫌いな物にチャレンジする
- ・給食でマナーよく食べる
- ・けじめをつけて行動する
- ・時と場所と相手を考えて行動する

新苑学級の3学期の予定も、様々なものがあります。

1月26日 三校交流 「百人一首大会」

2月 2日 都立特別支援学校入試

2月16日 特例子会社 (スワカフェ・ベーカリー赤坂店) 見学

3月 8日 学級まとめ発表会

保健室 「性といのちと社会」保健指導

12月21日に、本校体育館にてNPO法人「HIVと人権・情報センター」の塩入康史先生を招いて、新宿区保健所と共催でエイズに関する講演会がありました。テーマは「AIDSを通して見える、性といのちと社会」でした。皆さんの感想の一部を紹介します。

「AIDS」や「HIV」という事で、昔やさやに今でも差別を受けているということを知って悲しいなと思いました。「AIDS」は別に触ったりしたくらいで、うつったりはしない。私は、もし目の前にAIDSの患者さんがいても、絶対に差別はしたくないと思いました。

AIDSは自分で感染を防げる病気だから、感染しないように自分で気をつけていきたいです。

(3年生 女子)



ウキウキ! よっちゅうせい

●交通事故防止への感謝状

警視庁四谷警察署と
四谷交通安全協会から、四谷中学校に、「地域の交通安全」に協力したことに対し感謝状をいただきました。



●新宿区環境絵画展

田中 久貴 中学生の部 金賞
大多和 柚奈 中学生の部 銅賞
吉川 佳那 中学生の部 銅賞
吉川 文香 中学生の部 努力賞

●サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

11月24日に2年生対象に、早稲田大学の先生が、生物発光について授業をしてくださいました。内容は、生物発光の仕組み、発光するときの条件を確認する実験、確認したことを使って、酵素駅を見つける実験でした。



酵素液を見つける事件では、各班で方法を教え合ったため、いろいろなやり方がでて、クラスで考えを深める事ができました。

生徒の感想を紹介します。

今回は、光についての実験を通して、自分たちで考えて、答えを導くことができたのが印象的で楽しかったです。また、目で見て結果が分かる実験だったので、ちゃんと結果が出たときは、うれしかったです。何より、説明がわかりやすく、しっかりと理解することができました。(梁瀬、渡辺)

●音楽鑑賞教室

11月16日に、私たちは音楽鑑賞教室に行きました。そこで、私たちは色々な曲を聞きました。

私は吹奏楽部に所属していますが、オーケストラを生で聞くのは初めての経験でした。

今回の演奏に触れて、ハーモニーや楽器の楽しさを改めて感じる事ができました。音楽を“聞く”ということの楽しさに触れて、とても良い経験ができました。私も。人を幸せにできる音が出せるようになれば素敵だと思いました。(瀬田)

平成22年度 四谷中学校ボランティア活動のご報告

日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき感謝いたします。本年もよろしくお願ひいたしま

さて。本年度のボランティア活動は11月24日の花いっぱい運動をもちまして無事予定した活動を終わることができました。これまでの保護者・地域の方々の御協力に感謝いたします。ありがとうございました。



5月29日の緑の羽根募金活動から合計10回のボランティア活動を行いました。活動に参加した生徒はのべ120人でした。1年生は全員参加、2・3年生は有志の参加という形態は前年と同じでしたが、有志による参加が前年に比べ増加したのは1年生で経験したボランティアの気持ちが広まった成果と考えます。

これからも地域協働学校として地域でのボランティア活動の推進を重視してまいります。「四谷の子どもは四谷で育てる」という取り組みに向けて、保護者・地域の方々のより一層の御協力をお願いいたします。

日時	活動名
5月29日	緑の羽根募金
6月6日	本塩町御輿かつぎ・盲人センタでの活動
7月1日～7日	本校の七夕飾り
7月3日	四谷6小幼稚園こども祭り
7月28日～30日	若葉高齢者在宅センターでのボランティア体験
10月10日	四谷大好き祭り
10月3日	赤い羽根募金
10月24日	四谷文化祭
11月3日	四谷スポーツ・文化フェスタ in四谷ひろば
11月24日	花いっぱい運動

これからの主な行事

1月17日(月) 2年 スキー教室事前検診
19日(月) 2年 スキー教室 (3泊4日)
20日(木) 1年 フラネタリュウム教室
24日(月) 2年 代休

2月23日(水) 都立高校学力検査
24日(木) 定期テストD (~28日まで)

3月 3日(木) 新入生体験入学
8日(火) 学習発表会
10日(木) 3年 を送る会
11日(金) 3年 遠足
18日(金) 卒業式
25日(金) 修了式

